

特別展「国宝 聖林寺十一面観音—三輪山信仰のみほとけ」

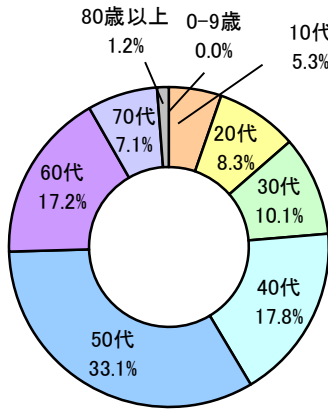
アンケート集計結果

開催期間：令和3年6月22日（火）～令和3年9月12日（日）（73日間）

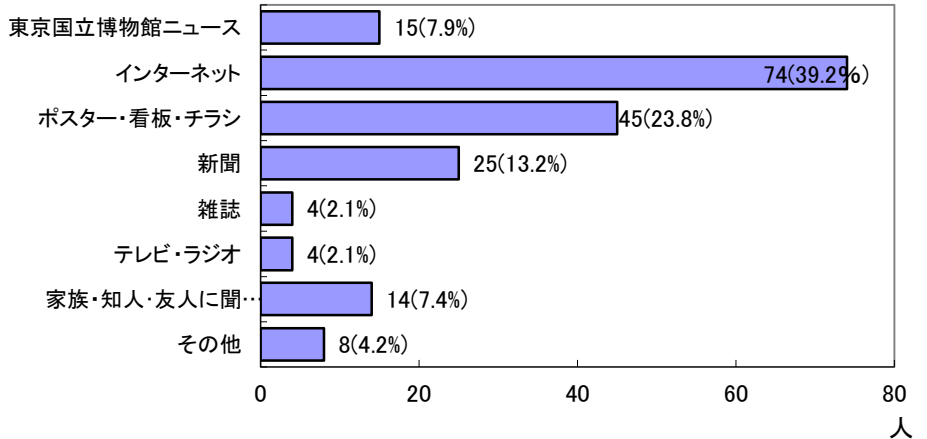
総入館者数：59,125人

回答者数：172人

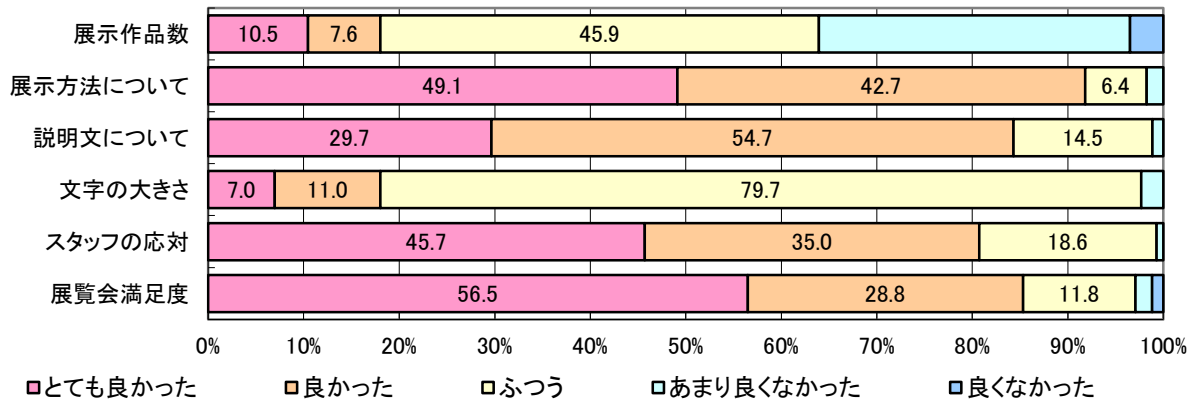
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ 国宝 十一面観音菩薩立像に感動した。
- ・ 時間ごとの入場で密にならず、落ち着いて観覧できた。
- ・ 音声ガイドが分かりやすかった。
- ・ 同時期に開催していた特別展「聖徳太子と法隆寺」とのセット券が欲しい。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	32.6	3.5
展示方法	1.8	0.0
説明文	1.2	0.0
文字サイズ	2.3	0.0
スタッフの対応	0.7	0.0
展覧会の満足度	1.8	1.2

(%)

本展では、かつて大神寺にあった国宝「十一面観音菩薩立像」（聖林寺蔵）、国宝「地藏菩薩立像」（法隆寺蔵）などの仏像と、仏教伝来以前の日本の自然信仰を示す三輪山禁足地の出土品などを展示しました。国宝「十一面観音菩薩立像」が奈良県外に出ることは初めてであり、多くの来館者に、この比類なき美しさを間近で、ご覧いただく機会となりました。

本展は、昨年6月に開催を予定していましたが、緊急事態宣言を受けて、本年に開催が延期となりました。会期中に、緊急事態宣言が発令され、通常とは異なる状況下にはありましたが、事前予約制、入館者数の制限、館内消毒の徹底をはじめ、展示室内での会話を控えていただくなど、来館者のご理解とご協力により、無事に閉幕することができました。

本展を観覧しアンケートに答えた85.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見が寄せられました。また、同時期に開催していた特別展とのセット券を求める意見も寄せられるなど、コロナ禍における新たな博物館運営への助言をいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。